

水道管内カメラ診断評価マニュアルと 管内評価認定制度



1. 水道管内カメラ診断評価マニュアルと 管内評価認定制度

水道統計によれば、法定耐用年数を越えた水道管の割合は平成19年度に6.3%だったものが、平成30年度には17.64%に増加し、更新率は平成19年度に0.94%だったものが、平成30年度には0.68%にまで低下しており、更新の予算が更新需要に追いついていない状況が確認できる。このため、将来にわたって水道事業の経営を安定的に継続するためのアセットマネジメントの重要性が指摘されており、管路施設に関するデータの整備や日々の調査、点検などを通じた管路健全度の把握など、予防保全を目的とした計画的な維持管理が必要不可欠である。水道管路の老朽化による管体劣化は漏水事故の大きな要因であり注目される問題になっているが、管内面の劣化による水質事故についても水道需要者である住民や事業者の水道不信に繋がる重要な問題である。

水道管内カメラ調査の最大の特徴は、水道管内を非開削且つ不断水で観察できることである。人間に例えれば、胃カメラ等の内視鏡検査による診断に相当し、病の早期発見並びに適切な治療を行うものである。(一社)全国水道管内カメラ調査協会では、水道管内カメラ調査につい

ての的確な理解と情報提供を目的に平成25年5月に「水道管内カメラ調査ハンドブック ～カメラ調査を活用するために～」を発刊した。以降、水道管路の維持管理のツールとして水道管内カメラ調査が注目されるようになり、現在では全国的に普及し調査件数は年間500件を超えている。しかし、管内調査の手順や管内診断の評価方法が調査会社ごとに異なる恐れがあり、また評価結果の判定についても担当者の主観で行われるためこれらの全国統一の基準化が求められていた。

そこで当協会では、カメラ調査による診断を全国同一のレベルで客観的に評価診断ができるようにすることを目的に、「水道管内カメラ診断評価マニュアル～

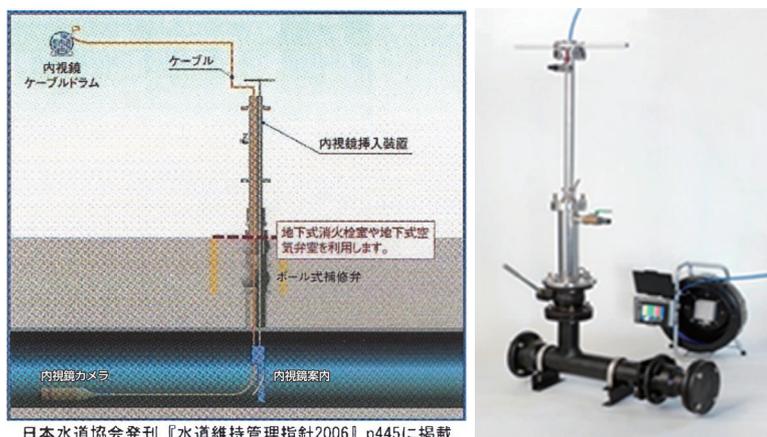


図-1 水道管内カメラ調査

〈機関誌記事・論文の検索〉 ホームページ文献検索システムの技術区分検索で記事・論文をダウンロードできます。

- 推進(極小口径) 推進(小口径) 推進(大口径) HDD(誘導式水平ドリル) 管更生(小口径) 管更生(大口径) 既設管改築 位置検知・資材 地下探査・調査
- 管内検査・診断・調査・清掃 耐震・長寿命化 理論解析・計測 ソーシャルコスト 海外情報・環境保全 立坑・マンホール その他 設計・調査 資産管理